



1. Reduce

ノントレー・環境配慮型容器の導入

カトラリー削減の取り組み

2. Recycle

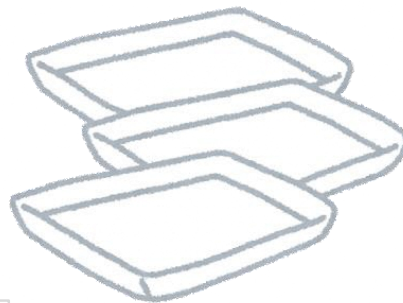
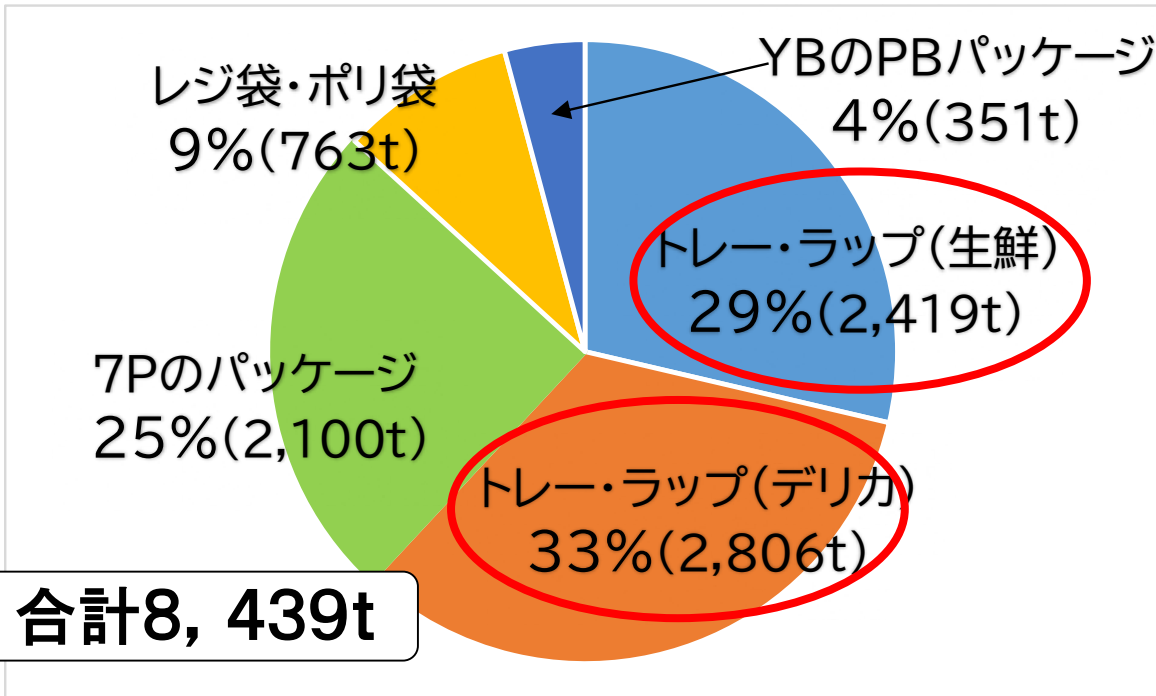
ペットボトル回収の取り組み

1. Reduce(ノントレー・環境配慮型容器の導入)



ヨークベニマルが排出するプラスチックのうち一番多いのは**トレー・ラップ**

ヨークベニマルが排出するプラスチック(内訳)



豚肉(一部)、鶏肉・メーカーパック品等でノントレーの導入を実施

精肉ノントレー包装機・シーラー機
半数以上の店舗に導入済み



ノントレー商品



排出するプラスチック量を削減するため薄肉化やバイオマス素材への切替え等も順次すすめてまいります。

「トレー+フルラップ」⇒ノントレーにすると包装資材は約85%減らすことができる

1. Reduce(ノントレー・環境配慮型容器の導入)



【リサイクルトレイ(生鮮)】

ヨークベニマルが使用するトレイのうち、約45%は、リサイクルトレイ



使用済みトレイを再生原料としてトレイにリサイクル



ヨークベニマル店頭等で回収されたトレイを、原料として使用

コストを鑑みながら、原材料がリサイクル素材・植物由来の容器導入を今後も検討してまいります

【バイオマス容器(青果)】

植物由来100%のポリ乳酸を使用したプラスチック容器



植物を原料として作られる



とうもろこし



さとうきび

【バイオマス容器(鮮魚)】

植物由来95%のポリ乳酸を使用したプラスチック容器



鮮魚部の珍味で使用

※以前は色の課題があり、55%だった


2007年から有料販売をしているレジ袋については、現在辞退率約83%(バイオマス50%)

1. Reduce(ノントレー・環境配慮型容器の導入)



Y B

2021年度は、**約7 t**のプラスチックカトラリーを使用

	デイリー	総菜		試食用(パッケージ無)	
	デザートスプーン	総菜スプーン	総菜フォーク	コロナ禍で使用実績なし	
				スプーン	フォーク
					
素材(現在)	プラスチック	バイオ10%	バイオ10%	プラスチック	プラスチック
21年度 年間使用量	1.6 t	5.37 t		0.02 t	0.04 t
方向性	紙に一本化	バイオマス含有		紙に一本化	



昨比49%

22年度

素材(現在)	プラスチック	バイオ10%	バイオ10%	プラスチック	プラスチック
年間使用量	0 t	3.45 t		0 t	0 t

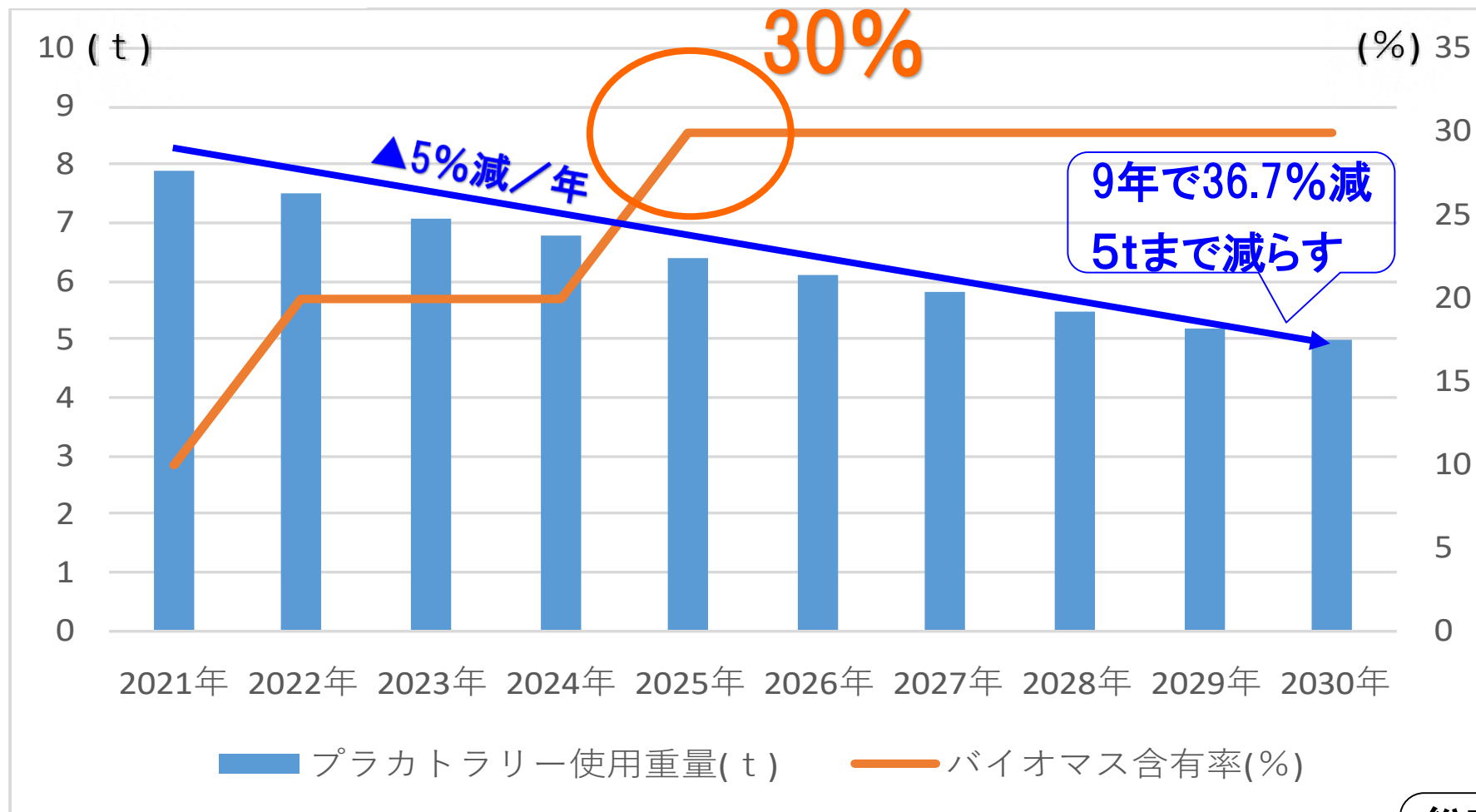
※消耗品のストローは、バイオマス100%のアイテムに切替え済み

原材料の種類工夫=紙・バイオマス含有品等への切り替えで対応

1. Reduce(ノントレー・環境配慮型容器の導入)



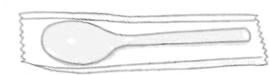
【計画】



プラスチックカトラリーの使用重量を毎年5%減

バイオマス含有比率は2025年までに30%にする計画

総菜スプーン提供を
12本⇒11本/日
(店舗あたり)にしたい



2. Recycle



【ペットボトル回収実績(通期)】 (単位:t)

	回収重量
2021年度	5,117
2022年度	5,455 (昨比107%)

【古紙回収実績】 (単位:t)

	Y B
2021年度	43,803
2022年度	46,262 (昨比106%)

